

JHFREPORT



「ハンググライディング日本選手権2022 in 朝霧」より（14ページに報告を掲載）

JHF創設40周年、これからも「安全こそ第一」

1982年5月22日創設のJHFは、もうすぐ40回目の誕生日を迎えます。これまでJHFを支えてくださった会員や関係者の皆様に感謝し、盛大にお祝いしたいところですが、新型コロナウイルス感染症が未だ脅威である現在、それぞれの場でJHFが40年間に積み重ねてきたことに思いを馳せていただけたら幸いです。

日本ハンググライダーフライヤー連盟、日本ハンググライディング委員会の意志を継ぎ、40年前に日本のハンググライディングの統括団体として歩み始めたJHF。そのめざすところは、常に「安全にフライトを楽しむ」環境を整備し維持することでした。日本航空

協会をはじめ多くの方々のご指導、ご支援を得て、会員の皆様のご理解、ご協力の下、フライヤー登録や技能証の制度、指導者の育成、機体登録制度、競技ルールなど、さまざまな課題に取り組み、安全性の向上を図ってきました。今後のJHF活動も「安全こそ第一」であることに変わりはありません。

非常に残念なことに、今年の2月・3月に重大事故が3件起きてしまいました。1件はレッグベルトの締め忘れが原因ではないかと考えられます。この40年間に、準備や飛行前のチェックを確実にしていれば防ぐことができたフックアウト・レッグベルト締め忘れ

による事故が繰り返し発生してきました。人間が空を飛ぶ。そのリスクはフライヤーひとりひとりをご存知のはず。今すぐ飛び立ちたい、そんなときも初心に立ち戻り、冷静かつ確実な準備とチェックをお願いします。

ハンググライダー、パラグライダーともに昨年はクロスカントリー国内記録が塗り替えられ、いつかは自分が記録を更新するのだと張り切っているパイロットは少なくないでしょう。フライト計画をはじめ準備は万端か、今一度の確認をお願いします。また、大型連休に久々のフライトをする方は、慎重に。どうぞ「初心」をお忘れなく。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

2022年度JHF事業計画と予算

事業方針

2年前から新型コロナウイルス感染症の流行が続いてきましたが、欧米ではマスクが義務ではなくなる国も現れ、日本でも3回目のワクチン接種を経て通常の生活への期待が高まってきました。

2022年はこれまで室内にこもりがちだった人々の関心も外へと向かうでしょう。今年はスカイスポーツにとっても復活の年になりそうです。JHFでは、スカイスポーツは感染リスクの少ないスポーツであることを踏まえて、一般の人々がハンググライダーやパラグライダーを体験したり、その競技を観戦する機会を増やすなどの普及活動に取り組んでいきます。安全は普及の前提です。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

事業の具体的内容

HG：ハンググライディング

PG：パラグライディング

MPG：モーターパラグライディング

XC：クロスカントリー

【理事会・事務局の事業】

- 1 全国のフライヤーの実態把握と安全対策
- 2 愛好者増加の推進
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 JHF40周年記念事業・白書の編纂
- 11 寄付・助成金獲得への取り組み
- 12 オンライン手続き、キャッシュレス決済の研究
- 13 その他定款の定める管轄事項

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理（注意喚起など実施）
- 2 事故調査活動
- 3 セーフティーノーツの管理
- 4 ハング機体整備の現状と見直し
- 5 委員会ホームページの管理
- 6 JHFレポートへの安全に関する記事の掲載
- 7 チェック5タグの普及推進（安全注意喚起）
- 8 コロナ感染予防対策の推進
- 9 機体登録制度の推進（EN情報との連携及びホームページ掲載）
- 10 レスキューパラシュートリパック認定証テキストの改定
- 11 PG/HG/MPG パイロット安全セミナーの推進
- 12 PG/HG/MPG パイロット安全セミナーのテキスト改訂

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG/HG/MPG パイロット安全セミナーの開催
- 2 教員実技検定会
- 3 教員学科集合検定会
- 4 上級タンデム技能証検定会（12回予定。初回合格者が3年の期限を迎えるので継続のため開催数を増やす）
- 5 教員助教員更新講習会
- 6 レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会
- 7 レスキューパラシュートリパック認定証検定会
- 8 教員検定員講習検定会（2023年2～3月予定）
- 9 スクール登録
- 10 タンデム教本の作成（上級タンデム教本と分冊にする）
- 11 教員養成課程の制定
- 12 教員の資質向上の支援（教員学科検定の予備講習の成果を検証、現役教員・助教員への展開も検討）

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズの運営
- 3 フライトコンテストの運営

- 4 委員会ホームページの運営
- 5 クラスI日本選手権の開催（2022年1月8日～10日 静岡県朝霧）
- 6 クラスV日本選手権の開催（2022年4月7日～10日、茨城県足尾）
- 7 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 8 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 9 競技レベルの向上を目的とした事業「日本ハンググライディング競技者育成プログラム」の立ち上げ

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
- 4 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 5 XC日本選手権の開催 開催地・時期未定
- 6 アキュラシー日本選手権の開催 開催地・時期未定
- 7 第4回アキュラシーアジア選手権（カザフスタン 6月21日～29日）に選手団派遣

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
 - 1) 理事会諮問事項への答申等 規程改正案作成と理事会上程
 - 2) JHFホームページ上の総覧整備（規程改正およびFAI部分）
<https://jhfh.hangpara.or.jp/office/office.html>
 - 3) FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究
- 2 他委員会および事務局との連携
 - 1) 各種制度導入および改正について各委員会と検討

●補助動力委員会

- 1 MPG事故情報管理
- 2 MPGパイロット安全セミナー開催
- 3 JPMAと共同でイベント開催（関東エリアで9月か10月開催）
- 4 委員会ホームページ管理

● ハング・パラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
 - 1) フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
 - 2) 飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
 - 3) 学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
 - 4) 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」更新
 - 5) JHFレポートの活用検討（フライヤーからの投稿記事など）
 - 6) SNS（Facebook等）を活用した情報発信の検討
 - 7) Twitter、Instagramを利用した「笑顔の写真」「楽しい写真」の募集
 - 8) Sports NaviとPR TIMESへの積極的投稿
ハングシリーズ、フライトコンテスト、J、J2、アキュラシリーズ、XCリーグ
 - 9) 一般人がハング・パラ大会を観

戦できる仕組みの検討
大会会場での観戦、ウェブ観戦、ライブトラック・ライブカメラ活用、競技を説明するパンフ等の作成→2022年検討・試行→2023年実施

- 2 体験会等イベントへの協力
「新しい生活様式」におけるイベントの模索
- 3 外部組織との連携
VR体験に関する大学研究室との協力体制維持

● 役員選任実行委員会

- 1 2023年総会における役員選任の準備と実施
- 2 役員選任規約の改定検討

● 事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）
- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（ハング・パラグライディング関連雑誌に情報を提供）

- 4 一般媒体などへの情報提供（ハング・パラグライディングの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業
- 7 スクール・エリア登録の推進
- 8 ITシステムの更新および効率化

【その他の事業】

上記のほか、この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

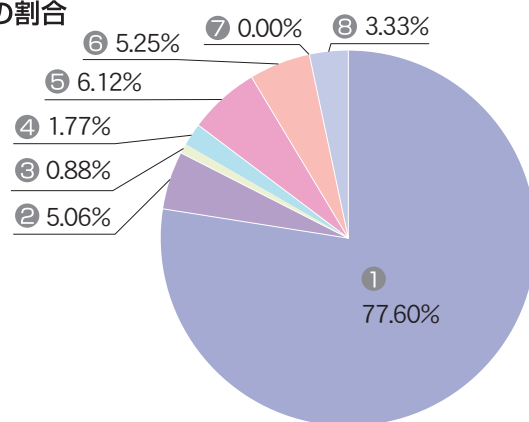
予算

2022年度予算の収入・支出の割合を下のグラフにしました。

JHFの活動を支えているのは主に会員の皆さんの会費や各種申請料などです。これらの収入がどのような配分で今年度の事業に活かされるのかをご覧ください。

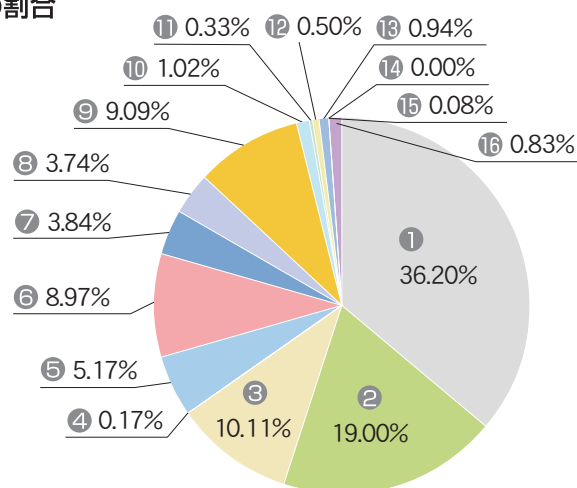
収 入 （単位:円）	
① 会費等	44,377,000
② 技能証の発行に基づく収入	2,891,000
③ 競技に関する収入	502,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	1,010,000
⑤ 検定会参加費	3,500,000
⑥ 補助金	3,000,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	1,903,500
前期繰越金	
合 計	57,183,500

収入の割合



支 出 （単位:円）	
① 会員サービスのために	21,698,500
② JHFの維持運営のために	11,392,000
③ 都道府県連盟の補助のために	6,060,000
④ 公益事業の推進のために	100,000
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	3,100,000
⑥ 広報・普及活動のために	5,380,000
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,300,000
⑧ 競技のために	2,240,000
⑨ よりよい教習環境のために	5,450,000
⑩ 委員会活動のために	610,000
⑪ 補助動力のために	200,000
⑫ 学生の補助のために	300,000
⑬ 事故調査や安全のために	565,000
⑭ 海外との交流のために	0
⑮ 制度のために	50,000
⑯ 総会のために	500,000
合 計	59,945,500

支出の割合



JHFの動き

JHF活動の要となる常設委員会 委員を選任しました

JHF常設委員会の委員が2022年3月31日に任期満了を迎えるため次期委員を募集しました。全国から立候補をいただき、3月11日の理事会／4月6日文書理事会において次の方々を選任しました（敬称略、あいうえお順）。2022年度・2023年度の2年間、JHFの様々な活動を担っていく委員の皆さん、よろしくお願いします。

●ハンググライディング競技委員会

定員5名

櫻井大朗、鈴木皓子、中西亮太、
箕谷将明、牟田園明

●パラグライディング競技委員会

定員5名（アキュラシー競技委員として1名追加）

岡 芳樹、上山太郎、小林大晃、
鈴木洋史、長島信一、村上修一

●教員・スクール事業委員会

定員6名

奥野圭一、北野正浩、西泉隆広、
福田一郎、福田武史

●補助動力委員会

定員5名

小川勝良、賀家慎司、須藤 彰、
宮本 司

●安全性委員会

定員6名

伊尾木浩二、佐藤克久、西本一弘、
目黒 敏、山本 貢

●制度委員会

定員5名

泉 秀樹、井上 潔、中瀬 誠、
宮川雅博

●ハングパラ振興委員会

定員5名

井上 潔、篠塚富偉、鈴木由路、
堀江 譲

●役員選任実行委員会

定員5名

荒井 稔、柿澤貴宏、篠塚富偉、
鈴木由路

JHF定時総会

対面＋オンラインで開催

6月14日（火）、東京都内において対面＋オンラインでJHF定時総会（通常総会）を開催します。

報告事項は、2021年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2022年度

の事業計画と収支予算。決議事項は、貸借対照表及び損益計算表（正味財産増減計算書）の承認を予定しています。

今回も、新型コロナウイルス感染症対策により、ハイブリッド出席型（対面＋オンライン）総会の準備を進めています。また、感染予防のため傍聴は不可とさせていただきます。

教員検定・集合学科検定会を 実施しました

2月26日（土）・27日（日）、2021年度の教員学科検定会を開催。教員に必要な知識や技術、心構えの研修と、教習実技、学科検定を行いました（実技検定は全国の教員検定員のもとで受検）。

2020年度に続き新型コロナウイルス感染症対策として、東京ではなく2箇所（茨城、大阪）に分散し、一部はリモート会議システムにて実施。今年度は教員の資質向上の支援として、教員学科検定の予備講習を、検定前の6週間に渡り毎週火曜日19時から20時までオンラインで実施しました。

検定会は3名が受検。そのうちハンググライディング教員受検の神谷明英さん（東京）は、実技検定合格後に教員として活動を開始します。

上級タンデム検定会

各地で開催します

2022年度の上級タンデム検定会を各地で開催します。2023年3月31日で有効期限が切れる方の継続検定も行います。

今年度の予定は以下のとおりです。

○北海道 6月下旬

○東北 6月中旬（平日）、9月中旬～上旬（週末）

○朝霧 6月18日-19日（週末）、11月14日-15日（平日）、2023年1月23日-24日（平日）、2023年3月4日-5日（週末）

○獅子吼 6月上旬

○紀の川 12月（平日）、2023年2月（平日）

上記予定は変更する場合もあります。日程は確定した検定からJHFウェブ「上級タンデム技能証検定会のご案内」でご案内していきます。申込人数が定員数に達しない場合は延期の可能性もあります。

また、これ以外の場所・日程でも、受検希望者が10名以上集まれば開催を検討します。受検をご希望の方はJHF事務局にお知らせください。

登録スクール／フライトエリア一覧 入れ替えました

2021年12月3日理事会で「JHFスクール登録規程」ならびに「JHFエリア・クラブ登録規程」を改定。これに伴って2022年4月1日、JHFウェブサイトで公開している登録スクール一覧／フライトエリア一覧を入れ替えました。

ただいま新規に基づいたスクール／エリア／クラブ情報の登録申請を受け付け中です。登録有効期限は2024年3月31日まで。その後の更新についてはあらためてご案内します。

スクール、エリアやクラブの登録をご希望の方は、JHFスクール登録規程／JHFエリア・クラブ登録規程をご確認のうえ、WEB申請登録フォーム（Google）にアクセスし、各項目を入力し送信してください。

新規定、申請登録フォームは、JHFウェブサイトのトピックス（2月28日）をご覧ください。上記の申請入力に必要なGoogle IDについても、このトピックス内でお知らせしています。

JHFフォトコンテスト開催

お気軽にご応募ください

今年度もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。第9回となる今回も、ハンググライディング・パラグライディングの醍醐味や楽しさを伝えられる作品を募集します。データでも応募可能です。お気軽にご応募ください。

担当者一同、楽しみにお待ちしております。

募集要項等はJHFウェブサイトのトピックスをご覧ください。応募締切日は2022年9月5日（月）です。



第8回最優秀賞「朝霧の大野城」江端邦昭さん作品

■上空からの社会貢献にご協力を 和歌山県フライヤー連盟

2021年10月、「和歌山県ごみの散乱防止強化月間式典」に出席しました。

2020年10月1日に「和歌山県ごみの散乱防止に関する条例」が全面施行されたことをうけて、2021年から毎年10月を「和歌山県ごみの散乱防止月間」とし、ごみの散乱を「しない」「させない」「許さない」取り組みを強化。

和歌山県フライヤー連盟は、2005年度より、「不法投棄通報協定」の締結を和歌山県と行い、後に日本郵政株式会社も加わりました。

主な活動は、上空から不法投棄を発見した際、すみやかに和歌山県へ通報。

フライヤーの皆さまからの情報提供により、社会貢献へつなげ認知度を高めます。

引き続きフライヤーの皆さまには、ご協力をいただきたくよろしくお願いいたします。



和歌山県庁前でハングとパラを上げた式典。



左から3番目が式典に参列した向平理事長。

■合同セーフティーミーティング 大阪府フライヤー連盟 兵庫県フライヤー連盟 和歌山県フライヤー連盟

2022年2月26日(土)・27日(日)、大阪市舞洲スポーツアイランド、太陽の広場と空の広場において、大阪府、兵庫県、和歌山県の3府県合同によるパラグライダーセーフティーミーティングが開催された。

JHFの正会員は47都道府県連盟で、それぞれが独立して活動している。し

かし、都道府県によってフライヤーやエリア、スクール数はまちまちで、活動内容やレベルは大きく異なるし、問題点も少なくない。例えば、和歌山県連は人気エリアやスクールはあるが、人口自体は少ないので、JHFからの事業費や連盟を運営する人材が少ない。逆に大阪府連は、フライヤー人口は多いが、この舞洲がオープンするまでは、エリアもスクールもなかった。フライヤーは居住地より、ホームエリアや出身スクールでの活動が主となるので、大阪府連盟のために動くマンパワーは脆弱だった。

このような状況を踏まえJHFは、フライヤー本人が所属する都道府県連盟を選べる(例えば、大阪府在住でもホームエリアが兵庫県なので兵庫県連に入る)等、よりフライヤーが積極的に活動しやすい連盟になる方法も検討している。

また地区連盟の頃より、フライヤー人口は減少していることから、関西では複数の連盟が協力して事業活動をすべきという要望もあり、今回はその第一歩として、近隣3府県で、中央に位置する大阪市舞洲での合同セーフティーミーティングの開催となった。

因みに「ミーティング」という名称は、国や組織に関係なく楽しく安全に飛ばそう!という主旨で、過去にパラワールド誌が主催した「木島平ミーティング」を参考にしている。

内容は府県連盟主催ということで初心者から参加できるグラハンとスクー

ターティングによるフライト体験。体験の前半は安全のために広大な元滑走路の「空の広場」で行い、動作に慣れた後は「太陽の広場」で希望者は高度を上げて他のエリアでは見られない大阪市街の絶景を楽しんだ。

夕方から隣接するホテルの会議室で、スカイパラグライダーズの天野氏による「パラグライダーのマテリアルから見る安全性」というテーマの講演が行われた。それまでには同会場でJHF教員学科検定会も開始されていたので「ミーティング」の名に相応しく、JHF理事、教員検定員、府県連盟理事長、スクール代表者、メーカー等パラグライダー関係者が集まり、パラグライダー全般について熱い話し合いもされた。

次の府県合同事業としては、冬の紀の川フライトパークでの試乗会を検討している。西日本最大の試乗会として20年間にわたり今までほぼ1つのスクールが運営してきたが、経済的、人的負担が大きく、継続が困難になってきた。そこで府県連盟で何らかの形でサポートし、フライヤーのためにも業界のためにも貴重なこのイベントを存続していく手伝いをしようと考えている。



天野氏による講演ではマテリアルに焦点を。



広大な元滑走路でパラグライダー体験。

「もったいない」 事故をなくすために

JHF安全性委員会 委員長 伊尾木浩二

重大事故が連続して発生

2022年2月15日、28日、3月23日と、立て続けに重大事故が発生しました。

1件目の事故は強風時の飛行、2件目はレッグベルト締め忘れ、そして3件目は片翼潰れからのスパイラルダイブによるものと考えられます（下表参照）。

パラグライディング・ハンググライディングでは、わずかなミスや確認もれが命にかかわる重大事故につながる可能性があります。いつもの手順で急がず確実に準備をし、テイクオフ前の安全確認を必ずいつもと同じ順番で行いましょう。また、自分自身で気象状況を判断し、無理をせず、何よりも安全なフライトをこころがけましょう。

もったいない事故をなくす

過去の事故を繰り返すのは、なんとも「もったいない」こと。過去の事故に学び、テイクオフ前に必ず右記の内容を再確認して、安全なフライトを楽しんでください。

してください。

- チェック5 タグを必ずハーネス等に取り付けて、離陸前に確認
- クロスチェック（他の人との確認）を徹底
- レッグベルトを締め忘れた状態をシミュレーター等で体験
- スクール生（練習生）でも、インストラクターに頼らず自ら何度でもセルフチェック



チェック5 タグと取付例（パラグライダーハーネス）



ハーネスの装着はいつも同じ手順で行う習慣を。



レッグベルト締め忘れの状態をシミュレーターで体験。

パラグライダー 近年のレッグベルト付け忘れ死亡事故

2018年6月17日	PG	レッグベルト付け忘れにより落下
2020年5月2日	PG	レッグベルト付け忘れで飛行しツリーラン、木から落下
2021年3月10日	PG	レッグベルト付け忘れにより落下
2022年2月28日	PG	レッグベルト付け忘れにより落下

ハンググライダー 近年のフックアウト及びハングループ（スイングライン）による事故

2018年4月30日	HG	スイングラインの接続方法ミスが原因で外れる
2019年2月17日	HG	フックアウト

2021年～2022年の事故（2021年11月以降に提出された事故報告に基づく。前号に掲載していない内容）

			練習生	怪我状況
2021年6月19日	PG	低高度で旋回中に失速	1名	胸部骨折
2021年6月26日	PG	潰れから失速しツリーラン		無傷
2021年7月10日	MPG	地上でエンジンが全開となり転倒		右肩脱臼
2021年12月19日	PG	アクセルラインをレッグベルト内に通して離陸。ツリーラン		無傷
2021年1月8日	HG	講習斜面で練習中に着地失敗		左上腕粉碎骨折
2021年1月9日	HG	競技中にツリーラン		不明
2022年2月10日	MPG	強風時に離陸し風に煽られ木に接触、舗装路に落下		両足首骨折
2022年2月15日	PG	強風時に飛行し流されフェンスに引っ掛かり落下		死亡
2022年2月19日	PG	アキュラシー競技中、アプローチで失速		肋骨・腰椎骨折
2022年2月28日	PG	レッグベルト付け忘れ		死亡
2022年3月23日	PG	片翼潰れによりスパイラルダイブで落下		死亡

あなたの離陸準備は完璧ですか？

JHF安全性委員会 担当理事 竹村治雄

アクシデントの根本的な原因は？

パラグライダーフライトでの、ラインが絡んだままでのテイクオフ、レスキューピンが外れたままテイクオフ、レッグベルトのバックルの締め忘れ、ハングライダーのフックアウト、これらのアクシデントの根本原因は何でしょうか？

クロスチェックや、セルフチェックはミスを発見するために有効な手順で、そこでミスが見つければよいのですが、これらの根本的な原因は、テイクオフに必要な準備がきちんに行えていないことです。セルフチェックもクロスチェックも準備が確実にできているかを再確認するための手段として励行されるべきですが、それ以前の段階の準備が完璧に行われるように習慣づけられていれば、よりアクシデントやインシデントの発生を防げるはずです。では、どうして準備がうまくいかないのでしょうか？ あるいは、どうすればミスなくテイクオフ準備ができるのでしょうか？

毎回同じ手順でフライト準備を

航空機の離陸でも行われている効果的な対策は、毎回同じ手順でフライト準備を行うことを習慣づけることです。

準備をいくつかの段階に分けてもよいですが、その段階ごとに確実な実施を心がけましょう、もし、ある段階で準備中に、誰かから話しかけられたり、電話がかかってきたりして、準備を中断した場合は、もう一度最初からその段階の準備を実施しましょう。ラインチェック中に中断した場合は、もう一

度最初からラインチェックを中断なく最後まで行うことで、チェックミスを防止できます。

ハーネスの肩ベルトに両肩を通したら、すべてのバックルを締めるまでの動作を一連の動きとして実施することを習慣化しましょう。一度閉じたバックルを何らかの理由で外すのであれば、必ずハーネスを脱ぐというのもよい習慣です。

各準備段階が完了していない状態で、別の動作を行うことは、その段階の準備の完了を怠るというミスの潜在的な原因になります。

ご自身のテイクオフ準備の手順をもう一度振り返って、一連の動作が、スムーズに、かつ中断なく行われる手順となっているか、今一度の確認をお願いします。

春の強いコンディションには細心の注意を！

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 会長 安田英二郎

2022年3月23日、強いローターによる翼の潰れが原因と思われるパラグライダーの墜落死亡事故が発生しました（事故調査未了ですので現時点では事故原因は確定していません）。

毎年3月から5月までの春の時期は上層の空気がまだ冷たい状態で日照が強くなるため、大気の流れが活発となり、強烈なサーマルや下降流

やローターが発生しやすい時期です。

強いサーマルは高高度飛行やクロスカントリー飛行を可能にしてくれますが、強いローターはパラグライダーの翼を一瞬にして潰してしまいます。

強いサーマルコンディションの日は、強いローターを伴う荒れたコンディションでもあることを忘れないでください。

無事故で楽しいフライトを。

航空スポーツの振興に向けて

3月22日（火）に安田会長、安全性委員会担当の竹村理事が、日本航空協会（JAA）からの求めに応じて、JAAを訪問し、高津航空スポーツ室長、岸同室参事と会談しました。

JHFからは最近の重大事故の状況、事故発生時のJHFの対応状況等について説明しました。また、航空法では航空機と分類されていないハングライダー、パラグライダーの安全対策に、種々の意見交換を行いました。

その後、コロナ禍で航空スポーツ人口が減少していることもあり、JAAとしてもコロナ禍以前の人口に戻すことに力を入れる方針であること、そのためにもスカイスポーツの安全確保は重要な課題であると認識していること

の説明があり、今後、JAAとしても航空スポーツ団体間での航空スポーツ振興にむけての情報交換の場を設けたいこと、その場を利用して安全に関する情報も共有することを検討している旨の説明がありました。

後日、JAA航空スポーツ室から各航空スポーツ統括団体に対して、航空スポーツ普及振興会議（仮称）設置の方針と各団体からの出席者の人選の依頼がありました。JHFとしても他の航空スポーツ団体との情報交換は普及や安全のために有意義だと認識しており、JAAのこの企画に積極的に協力していきたいと考え、近く理事会で人選等を実施する予定です。



フライト準備と確認はいつも同じ手順で行う。

2022年CIVL総会レポート

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が、対面ならびにオンラインで開催され、日本を代表するデレゲート（委員）として岡芳樹さんが、牟田園明さんがオルタネート（副委員）として参加しました。以下はお二人からの報告です。

PG=パラグライディング
PGA=PGアキュラシー
HG=ハンググライディング
XC=クロスカントリー

各委員会日程：

2022年1月27日13:30～18:30（UTC+1）
28日9:00～18:30（UTC+1）

総会日程：

29日9:30～18:30（UTC+1）
30日9:30～13:00（UTC+1）

場所：

ベオグラード、セルビア フィジカル＋リモート（ZOOM）

総会参加国（リモートを含む）：

アルゼンチン、オーストリア、ブラジル、ブルガリア、中華人民共和国、チェコ、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、香港、ハンガリー、イラン、イタリア、ラトビア、北マケドニア、ノルウェー、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロベニア、セルビア、スイス、タイ、台湾、トルコ、英国、米国、日本 委任：ドイツ→スイス、カナダ→米国

【CIVL関連】

■2021年の公認大会（ポイント計上した）は217であった。2020年は130であったので持ち直してきているが、コロナ前の2019年の326のレベルにはまだ戻っていない。

■EMS（Event Managing System：CIVLが開発した言ってみればAirTribuneのようなもの）が完成し、2021年12月から無償で利用可能となった。ドメインは、<https://civlcomps.org>。ボタン一つでフライマスターのライブトラックと接続でき、FAIのデータベースにアクセスして参加選手のスポンシングライセンスを確認することが可能。また大会結果をエクセル

あるいはFSDB形式でCIVLに送ってWPRSランキングに反映することも可能となる優れたもの。

これまでの、人海戦術的なWPRSポイントの計上方法では、例えば、同一選手が2つ以上のCIVL IDを持っていたり、同一のCIVL IDを持っている選手の国籍が異なっていたりと、正しいポイント計上ができないなどの不都合があったが、今後はEMSを使用することでこのような弊害を避けることができる。従来のWPRSランキングサイト（civlrankings.fai.org）はまもなく閉鎖される予定（civlcomps.orgで閲覧可能）。

EMSが完成したことによりS7（セクション7）共通に2.5.16 EMSとして次の文言が加えられることとなった。

「EMSを使用することは必須ではないが推奨される。カテゴリ1とそのテスト大会では、エントリー、選抜、すべての書類の公表、および結果に関してはこれを使用することを必須とする。CIVLはEMSのその他の機能も使用するよう要求できるものとする。また、

・初めてカテゴリ2に参加する選手はあらかじめCIVL IDを取得しておかなければならない。

・選手は、すべての情報を正しく入力する必要がある。civlcomps.orgに正しく登録されていない選手は、大会のランキングで処理されない。

・主催者は、エントリー時および結果の送信時にCIVL IDが正しいことを確認する必要がある。

施行日：2022年3月1日」

■2020年5月から始まったWPRSポイントの時間による減額システムの凍結は2021年11月に終了した。元に戻るには18か月ほどかかる。

■この総会は2022年1月中旬であるため、監査済みの財務情報はまだ手に入っていないので、最終的な決算はまだできていないが、予想としては、収入は970万円（パンデミックであった2020年520万円の約1.9倍。主としてカテゴリ2大会が多数開催されたため）、支出は1010万円（2020年1270万円）と比較して少なかった（主としてスポーツの発展とジャッジトレーニングに対する支出が減ったため）で、バランスはマイナス40万円。その結果、

繰り越し金額は2700万円となる。これまでCIVLの財政は健全で、スポーツの発展のため、ここ数年はバランスがマイナスとなっていたが、数年先を考慮すると、財政の健全化を検討する必要がある。

■2023年度予算に関して（FAIの方針で予算は2年前にFAIに提出となっているため、2021年のCIVL総会では2023年度予算を審議することになる）。

収入1100万円。内訳は次のとおり。大会公認料：950万円（86%）、カテゴリ1：230万円、カテゴリ2：720万円、IPPIカード：160万円（14%）

支出1490万円、その内訳は、事務局：390万円（26%）、大会関連（メダル・役員派遣）：340万円（23%）、ソフト・ジャッジトレーニング：290万円（19%）、理事・委員長旅費：200万円（13%）、その他：270万円（18%）

バランスとしてマイナス380万円。マイナス380万円を何とかバランスする手立てを考えなければならないと議論されたが、結論は出ず持ち越しとなり、予算案は承認された。

■カテゴリ2大会193大会。そのうち34大会でインシデント発生。合計64インシデント。その内訳は、29無傷、23軽傷、9重症、1死亡（クラヴァットからスピンに入りレスキューを投げたがハーネスから引き出せなかった）。

■2021年の総会は、リモートで行われ、これまで総会に参加したことのない国も参加してきたことは良いことであった。一方、対面で行われた年度中間理事会は、リモートにはないメリットも多かった。そこで、両方の良いところをとれるようにリモートによる会議を首尾よく運用するための機材（カメラ、音響装置）を購入し、2022年総会で使用された。

■CIVLから大会に派遣される競技役員に対する旅行傷害保険が2022年1月から手当できることになった。費用はCIVLが負担する。

■会員資格が停止あるいは失効（主にFAIの会費の支払いが遅れているあるいは支払っていない）されているあるいはFAIスポンシングライセンスの発行を渋っているNACによる不都合（大会が公認されないためWPRSポ

イントが獲得できない、あるいはスポーツライセンスが無いため公認大会に参加できずWPRSポイントが獲得できない)が長年継続している。FAIによる改善策を要求しているが、いまだに解決されていない。

■S7の文言をジェンダーニュートラルなものに書き換えることとする(ボランティアを募って、できるところから始める)。

■CIVLのInstagramのアカウント (@fai.civil) が開設された。

■FAIスポーツメダルは、第3回PGアクロバット世界選手権を主催した Aero Club Lega Piloti, Aero Club Blue Phoenix and Volo Libero Friuli ASDを推薦することとなった。

■PGXC委員会の委員長に、アメリカのBill HUGHESが選出された。

■次回総会は、2023年3月2日～5日の日程で、ポルトガルのポルトで開催されることとなった。

【HG・PGXC・PGA関連】

■S7共通の2.5.2 Individual Entryに関して

現行の「現世界および大陸チャンピオン、男子および女子、そしてPGXC大会においてはWPRSランキングの女子トップ5はタイトルを防衛するために、チームメンバーとして選ばれていない場合はNACの承認があれば、任意にエントリーする事ができる。」となっているのを「現世界および大陸チャンピオン、男子および女子、そしてPGXC大会においてはWPRSランキングの女子トップ5はタイトルを防衛するために、チームメンバーとして選ばれていない場合はNACの承認があれば、各国1名のみ任意にエントリーする事ができる。」に変更して承認された。

■アロケーションに関して (S7)

A (XC)、B (アクロ)、C (アキュラシー) で若干の違いがあるが、大会開始60日前までに終了するとなっている。しかし現実には、事故や病気などで参加できなくなった選手の枠を大会直前まで割り当てることが行われている。これを各種目で統一かつ改善するために、「アロケーションは大会開始まで3か月から2か月の間で行われる。正確な締め切りはローカルルールに明記される。開始2か月前の締め切り以降大会開始14日前までは、空いてい



「ハンググライディング日本選手権2022 in 朝霞」より

る枠は通常のアロケーションルールにより割り当てられる。締め切り14日以降、大会最初のタスク/ラウンドのパイロットブリーフィングまでは、ある国に枠の空きが生じた場合は、その国の選手によって空きを埋めることができる。」に統一することとなった。

■S7共通、2.2.1 Categoriesとして、「・カテゴリー1および2大会として以下のカテゴリーで執り行われることが可能: 個人、チーム、総合、男子、女子、ジュニア。

・選手の性別に関しては国の発行する身分証明書に掲載されているものとする。

・ジュニアカテゴリーはジュニアU-XX (XX歳以下) と呼称される。年齢は選手が誕生日を迎える暦年で決定。そのカテゴリーは、XC: ジュニアU-26、アキュラシー: U-26、アクロバット: U-23とする。」を加えることが承認された。

【HG関連】

■クラス1パンアメリカン選手権(ビッグスプリング、アメリカ)はコロナのため中止(延期ではない)された。

■クラス1ヨーロッパ選手権(モンテクッコ、イタリア)はコロナのため2022年7月10日～23日に延期された。

■クラス1世界選手権(クルシェヴォ、北マケドニア)は2023年に延期され、その結果2023年にスペインのアジュールでの開催が決定されていた世界選手権は2025年開催として、新たに2023年の総会で立候補することとなった。

■クラス2の世界選手権(フランスの

アスプレシュールブエクで2022年7月23日～8月6日の日程で開催)を了承した理事会決定が本総会で承認されたため開催されることとなった。

■S7Aの2.2.1.3 Class 5 (大会参加資格)に関して、現在「選手権開始の3暦月前であるランキング基準日以前の36か月において: 1) ハングクラス1、2あるいは5で最低でもWPRSポイント20点を取得していること。2) 30人以上が参加したカテゴリー2大会に少なくとも1回、クラス5の機体で飛んでいること。」となっているところを、「選手権開始の3暦月前であるランキング基準日以前の36か月において: 1) ハングクラス1、2あるいは5で最低でもWPRSポイント20点を取得していること。2) 30人以上が参加したカテゴリー2大会に少なくとも1回参加していること。ただし30人の人数制約は複数クラスの併催でも可とする。また、参加するクラスは問わない。」とすることとなった。

【HG・PGXC関連】

■ソフトウェア作業部会からの提案、「これまではタスク距離は、スピードセクションの最短距離に、スピードセクションの前の最短距離とスピードセクションの後の最短距離を足したものであるとしているが、これをタスク距離は、テイクオフからゴールまでの最短距離とし、スピードセクション距離をテイクオフからESSまでの最短距離からスピードセクション前の最短距離を引いたものとする。」は承認された。

■記録・記章役員からの提案、「S7Fにおいてトラックログのレコードインターバルに関して、5秒となっているところをすべて1秒に変更する。」は承認され、同様の表現がS7Dにもあるのでそれも併せて変更することとなった。また、スロベニアからの提案、「S7A 4.4.1 Minimum Track Log Points中の5秒を1秒に変更する。」も併せて承認された。

■ドイツからの提案、「ターンポイントとCTRで異なるトレランスを使用しているが、同じとする。」は取り下げられ、制限空域に関する距離計算の基準を設定するために、GPSメーカーとCIVL代表からなる作業部会を設置して協議することとなった。

■ブルガリアからの提案、「世界選手権およびヨーロッパ選手権における最大参加人数を安全上の理由（空中接触を避ける）から現行の150人から130人に縮小する。」は、S7Aの2.1 ENTRYの「許容される参加選手の最大は150名とする。」文言を「許容される参加選手の最大は130名とする。この数値は開催立候補する際に例外的に増やすことができる。施行日：2025年1月1日」と改定することに修正され承認された。

■スロベニアからの提案、「S7A 雲中飛行の罰則に関して、現行：1回目そのフライトゼロ、2回目大会失格を、1回目10点、2回目計算式（ $1000 * \min(1, (1-1.05\text{depth}) / (1-1.05f))$ ）ここで $f=100$ ）、3回目大会失格とする。」は承認された。

■スロベニアからの提案、「S7Aの6.3 Specific Penaltiesに、タスクキャンセルとなった場合でも、そのタスクにおいて違反をした場合は、1回目の罰則として、警告を受けることとする文言を追加する。」は承認された。

■スロベニアからの、S7A 制限空域に関する罰則に関する提案は、上記のドイツからの提案とも関連しているので、制限空域に関する距離計算の基準を設定するために、GPSメーカーとCIVL代表からなる作業部会を設置して協議することとなり取り下げられた。

■スロベニアからの提案、「S7共通の14 WPRSに関して、現行：ジュニアクラスがXCでは25歳以下、アキュラシーとアクロバットでは23歳以下となっているものを、すべてにおいて26歳以下とする。」は、【HG・PGXC・

PGA関連】で承認された文言に合わせて、ジュニアに関して、XCとアキュラシーではU-26とし、アクロではU-23とすることで承認された。

■スロベニアからの提案、S7Aの3.3.9 Relaunchの1行目の「ローカルルールに明記されていない限り、選手は1回のみテイクオフする事ができる。」を、「ローカルルールに明記されているかその日のパイロットブリーフィングでアナウンスされていない限り、リランチすることは許されない。」と修正されて承認された。

■イギリスからの提案、「HGおよびPGの大会は長い歴史（カテゴリー2で新しい試みを試し、うまくいったらカテゴリー1で実施するといった）の中で発展してきたが、カテゴリー2の大会は千差万別で、特に安全面での不安もあるので 大会の核となるスタッフ（大会委員長、競技委員長、安全委員長など）のトレーニングと資格検定システムを作成するための作業部会を立ち上げ、予算をつけて3年をめどに活動する。」は、理事会主導で、有能でやる気のあるメンバーを選抜して作業部会を立ち上げ、ある程度予算措置（約40万円）をして、部会の活動ルールを作成し、予想される成果を理事会に上程し、承認を受けて作業を開始し定期的に進捗状況を報告することで、提案としては取り下げとなった。

■ブルガリアからの提案、「リーディングポイントの計算はどこからスタートしてどこで終わるかを明確化するためにタスクボードにスピードセクションの距離を明記する。」は、S7I Guidelines and TemplatesにXC Task Board Templateを新設し、そこに注釈としてスピードセクション距離を含むことが推奨される（必須ではない）との文言を入れることで提案は取り下げられた。

■スコアリングソフトFSの最新安定版 <http://fs.fai.org/trac/wiki/FS2021R1.2>

■次期スコアリングソフトと目される AirScore (<https://airscore.cc/>) はほぼ完成。

■2021年においてカテゴリー1で使用可能な計器が2個追加された。現在使用可能な計器のリストは、<https://www.fai.org/page/civil-xc-instrument-accepted>

■長いこと新しいスコアリング計算式の必要性が協議されてきているが、な

かなか先に進まない。そこで理事会主導で、大会を企画しこれまでに提案された計算式の実用性を評価することを模索する（2022年に2大会を企画していると総会終了時に説明があった）。

■フランスからの、S7Dの7.1 SOARING TASK DECLARATION FORMに、「エアスペース違反を防ぐ目的で、予想される飛行空域に問題となるエアスペースがあれば、それを明記すること」とする提案は、パイロットの負担が多くなることで不評を買い否決された。

【PGXC関連】

■5月に予定されていた世界選手権（クールドサヴォワ、フランス）がコロナのため2023年に延期され、急遽理事会とアルゼンチンの主催者との努力により、コロナパンデミックの中、唯一開催されることとなったPGXC世界選手権（ロマボラ、アルゼンチン）。何とか成功したが多くの問題が噴出し、それに基づく提案が今CIVL総会に上程された。

■ドイツからの提案、「大会で 사용되는ハーネスに関しても、機体（CCCクラス）と同じような制限を加える。」は取り下げられ、S7Aの8.5.1 Harnessを「カテゴリー1大会に参加するには、ハーネスとバックプロテクターの組み合わせは、大会開始90日以前にLTF09あるいはEN1651:2018以降の基準によって認証されていなければならない。CIVLは指標となるリストを公開する。」に変更して承認された。

■承認された選手権は以下の通り。

・第17回PGXCヨーロッパ選手権（ペガラハル、スペイン：2024年6月16日～29日）

・第6回PGXCパナアメリカン選手権（ラリオハ、アルゼンチン：2024年10月5日～12日）ただし、「テイクオフエリアがほぼフラットで、その先が崖である、またテイクオフエリアの後ろが木に覆われ、岩の多い急斜面でテイクオフで吹き飛ばされた場合危険である。広さとして2機が広げられる程度しかない。また緊急ランディングできるほどの広いエリアが少なく、回収道路も少ないので回収に時間がかかる。2021年10月のPWCでアウトランした選手の救出が翌日になった実績がある（ヘリコプターは利用できなかった）。

などなどの問題があるので、これらを解消するという条件付きでの承認とする。テスト大会までに解消すること。テスト大会前に主催者側の負担でCIVLから1名以上の評価者を送る。」との理事会からの条件が付けられた。

・第1回PGXCジュニア世界選手権（トルミン、スロベニア：2024年8月18日～31日）

・第1回PGXCアジアオセアニア選手権（ムンギョン、韓国：2024年6月）

【PGA関連】

■世界選手権（プリレップ、北マケドニア）がコロナ禍にも関わらず、これまでで最も多い国が参加し開催され、悪天候に苦しみられたが3ラウンド成立して世界選手権として成立した。斜面からとウインチによる発航方法が採用されたが、ウインチの気象条件への対応力が再確認された。

■カテゴリー2大会も新しい国で多数開催され（特にラテンアメリカ、中東）アキュラシー競技の地球規模の発展が

期待される。

■委員会からの「S7Cから9章Judging Codeを切り離して、独立した書類とする。」提案は承認された。

■承認された選手権は、

・第8回PGアキュラシーヨーロッパ選手権（レニングラード、ロシア：2024年9月12日～21日）

・第1回PGアキュラシーパンアメリカン選手権（ビエデチンチェ、コロンビア：2024年8月9日～17日）

JHF総合保障制度2022年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備える保険「JHF総合保障制度」の今年度募集が始まりました。以下は、東京海上日動火災保険からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

JHF総合保障制度とは

任意でご加入いただくフライヤーのための傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事でも補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。

ご注意いただきたいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは、第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

※ご加入にはフライヤー登録が有効である必要があります。

ますようお願い申し上げます。

◆JHF総合保障制度の特徴

・国内外を問わずパラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中はもちろん、お仕事や日常生活のおケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。

・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります（この場合は救済者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください）。

・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◆新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、このJHFレポート237号に同封のパンフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月6日（金）必着

です。

☐ ご解約

→必ずご返送ください。

☐ 引落口座変更

→下記問合せ先までご連絡ください。

◆マイページ登録のご案内

保険契約者様専用マイページのご案内です。マイページにご登録いただきますと、加入者票、保険内容がご確認いただけます。この機会にぜひご登録をお願い致します。

①下のQRコードを読み込み

②アプリをインストール

③氏名

④ID（メールアドレス）

⑤パスワード ※ご自身で設定

⑥証券番号 ※加入者票に記載



◆2022年度募集がスタートします

今年度で18年目を迎える本保障制度は、2022年3月1日現在、約830名の会員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただき

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を3月下旬に郵送させていただきます。大切なお知らせですので、書類到着後、必ず内容のご確認をお願い致します。その上で、以下ご対応をお願い致します。

☐ プランに変更あり

→期日までに訂正の上ご返送ください。

☐ プランに変更なし

→自動継続となります。ご返送は不要

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店
（株）東京海上日動パートナーズTOKIO
池袋支店 池袋支社

〒170-6030

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60ビル30階

TEL.03-6907-4622

（平日9:00～17:00 土日祝除く）

FAX.03-6907-4623

Email : info.ikebukuro@tnpgrp.jp

【マイページに関するお問合せ先】

TEL.0120-870-161

（平日9:00～17:00 土日祝除く）

フライヤー登録と同時に加入する保険（第三者賠償保険）では、ご自身のおケガは補償されません！

2021年のトップランカーは……

〈続〉2021年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして年間ランキングを決定しています。コロナ禍が継続する厳しい状況ながら2021年も「より遠くへ、より速く、より長く」を競う多くのパイロットたちが、技術と知識、経験をフルに活かして、それぞれの目標達成に向けて挑戦を続けました。今回は、前号編集中には順位が確定していなかったリーグについて報告します。

PG クロスカントリーリーグ

1位 中目みどり 最長4/3-204.09km
+112.00+86.62+76.47km 計479.17km
2位 阿知波広和 最長4/3-182.38km
+96.75+66.34+61.31km 計406.78km
3位 鈴木 和雄 最長4/3-146.02km
+85.05+81.29+76.60km 計388.97km
4位 杉下 拓也 最長4/11-148.66km
+100.09+78.53+55.60km 計382.88km
5位 橋本 耕一 最長4/3-120.50km
+118.44+74.19+57.79km 計370.93km
6位 多賀 純一 最長3/27-127.91km
+83.88+79.28+77.13km 計368.20km
最長飛行 中目みどり 4/3-204.09km
茨城県足尾山→宮城県刈田郡蔵王町



1位／最長飛行
中目 みどり

トップ3に入るのが目標で、数多いリーグトップ・最長飛行距離なんて夢のまた夢、絶対無理だと思っていた。多分、自己記録更新 (130km) ももう無理だろうと思っていました。

そんな中、リーグトップ・最長飛行距離・そして日本国内記録の「三冠王」を獲れたのは本当に嬉しいです。クロカンリーグで女性がトップになったのは初ではないでしょうか (もしくは全リーグ初?)。

「子どもの頃は鈍くさくて賞に縁のなかった私が、大人になって表彰されるようになった」という話を会社でしたら、生涯スポーツの講演ができそう

な話ですねと言われました (笑)。

何歳になっても成長できますし、誰にでもチャンスはあります。私もまた「もう絶対無理」と思う“自己記録更新”を目指したいと思います!

HG フライトコンテスト

[ストレートディスタンス クラス1]

1位 砂間 隆司 5/3 196.79km
2位 氏家 良彦 5/3 175.23km
3位 太田 昇吾 4/11 172.84km

[ストレートディスタンス クラス5]

1位 岡田 伸弘 4/12 240.12km
2位 松田 隆至 4/12 223.63km
3位 佐々木則生 4/12 218.12km

[アウトアンドリターン クラス1]

1位 石坂 繁人 4/7 90.94km
2位 大山 真哉 3/23 84.6km
3位 田中 元気 4/11 77.54km

[アウトアンドリターン クラス5]

1位 古坂 学俊 4/10 116.91km
2位 穴戸 俊之 4/7 99.19km
3位 山本 剛 7/22 77.39km

[トライアングル クラス1]

1位 田中 元気 4/11 117.59km
2位 氏家 良彦 4/11 106.92km
3位 石坂 繁人 4/7 99.76km

[トライアングル クラス5]

1位 山本 剛 7/22 121.29km
2位 松田 隆至 7/25 97.2km
3位 古坂 学俊 3/14 90.24km

[デュレーション]

1位 鳥海 真弓 7/19 6:43:42
2位 岡田 伸弘 4/12 6:09:27
3位 松田 隆至 4/12 5:41:06



ストレートディスタンス
クラス1 1位
砂間 隆司

2021年5月3日、大佐山。強めの西風の中、弱々しいブローでテイクオフし、196km飛べました。今回の記録は8年ぶりの自己記録更新で嬉しい反面、200kmには届かず最終局面でのコース取りに工夫がなかったようにも思います。

土日休みの社会人にとってクロカンのチャンスは年に数回しか巡ってこ

ないように思います。その時にテイクオフに立てるように日々頑張っていると思います。



ストレートディスタンス
クラス5 1位
岡田 伸弘

4月12日、東日本のクロカンのメッカ、足尾エリアからのクロスカントリーフライトに成功しました。ハングを始めてから30年来の目標、国内最長記録の更新です。ハング・パラでの距離飛行は運不運にも大きく左右されますが、今回のフライトはリジッドハンググライダーの機体の進化、先人達の気象解析、フライト実績、戦略の積み重ねの上にできたものです。これからは私を含めレコードを狙う人たちが、さらに距離を伸ばしてゆくでしょう。



アウトアンドリターン
クラス1 1位
石坂 繁人

アウト&リターン1位、ありがとうございます!

実は、このフライトではトライアングルの記録も狙ったのですが、そこらは関西勢に抜かれてしまいました。二兎を追う者は一兎だけしか得ず、ですね。2021年はクロスカントリー (フリーディスタンス) フライトで日本記録が塗り替えられました。僕の本業は「行っただけ」ですので、引き続きフリーディスタンスで240km越えを目指したいと思います!



アウトアンドリターン
クラス5 1位
古坂 学俊

年間1位で終わることができた感想は「運が良かった」の一言に尽きますが、対象となったフライトの日は風が穏やかながら雲底も高い素晴らしい春の条件で気持ちよく飛ぶことができました。今年も良い風に沢山巡り合っていて、フライヤー仲間とともに楽しく安全に飛びながら、ハンググライダーのフライトの可能性を広げていけたらと願っています。



トライアングル
クラス 1 1位
田中 元気

4月11日、岩屋エリアにて117.59kmのトライアングルフライト、達成できました！

テイクオフから南東へ36km、南西へ30km、北へ40kmのフライトでした。

岩屋エリアへは年に数回程度しか行けていませんが、このときは数日前からトライアングル条件を狙って計画を練っていました。エリアに着いたらパラの方々も「100kmトライアングル狙うぞっ！」と皆、鼻息を荒くしていたので、タスクは便乗させてもらう形でした。

岩屋エリアは、谷あり山あり盆地ありの複雑で面白い地形をしており、以前より、関西でトライアングルフライトを狙うならば岩屋だなと思っていたので、トライアングルフライト自己最高記録の飛びができて嬉しいです！沢山の仲間が集まって記録を狙ってフライトできる環境も頼もしく、これからも色々なフライトをしていきたいと思っています。



トライアングル
クラス 5 1位
山本 剛

またこのタイトルを獲得でき、とてもうれしいです。NASAスタッフの皆様、フライト仲間たちと家族にこの場を借りてお礼申し上げます。

受賞フライトは120kmと平凡ですが、飛んだのは梅雨明け直後の真夏の暑い日でした。春以外の季節でも、気象と地形と風を見れば、まだまだ色々な可能性があると思います。

皆さんも自由な発想で、新しい遊び方を探してみてください。



デュレーション
クラス 1 1位
鳥海 真弓

この一年は、その日の一番にソアリングをして一番最後にランディングをする、上げる技術・ステイする技術を高めることを課題としてきました。

長い時間を飛んでいると一日の風の変化を楽しめます。午前中、気温上昇と共に空気の層が抜ける瞬間は、空の天井の所々に穴が見え、風が急に躍動的に踊りだします。昼間のソアリングタイムは大自然の愛に包まれ、夕方は徐々に収束してゆくサーマルに風の命を感じます。気分は風の交響曲を聴いているかのよう。これからもいろんな風の曲を聴きたいと思っています。

HG シリーズ

[クラス 5]

1位	板垣 直樹	茨 城	70.9
2位	岡田 伸弘	静 岡	52.8
3位	塩野 正光	栃 木	51.9
4位	宍戸 俊之	茨 城	47.5
5位	古坂 学俊	茨 城	46.8
6位	松田 隆至	東 京	40.3



1位
板垣 直樹

2021年は新型コロナウイルスの影響で大会の中止や延期が相次ぎ、Class Vも春の日本選手権が延期、夏のSummermeetingが中止になり、一試合のみのシリーズ戦だった。それでも平均年齢を下げてくれる選手が新たに参加してくれたことは頼もしく嬉しい限りだ。

Class Iに比べ格段に操作性・滑空性能が高いClass Vは飛んでいても力を使わず全くと言うほど疲れない（自然と選手の平均年齢も高くなるのだろう）。

これからもみんなで頑張ってハンググライディングの可能性と魅力を広げていきたい。

個人のスキルの高い参加選手たちの中で今回も1位になれたことを誇りに思い、関係各位に感謝したい。

2021年パラグライディングXCリーグを振り返って

2021年度は、大会数はコロナの影響で少なかったが、クロカンフライトは密を避けられるため多くのパイロット（43名）から多くのフライト（464本）が計上された。これは、競技委員会とは別のXジャパンというクロカンコン

テストがあり、そこには簡単にフライト申請が可能で、そこに申請したフライトを自動で競技委員会のフライトに計上するシステムとしたことが大きいと思われる。

また特筆すべきは、久々に最長フラ

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

イト距離が更新され、それも200km越えて、パイロットは女子という、歴史に残るものとなったことである。日本国内でも、条件さえ揃えば、300kmも達成可能かもと期待が膨らむ。

2021年ハンググライディングフライトコンテストを振り返って ハンググライディング競技委員長 牟田園 明

2021年度のフライトコンテストはストレートディスタンスの当たり年となった。150kmオーバーの記録が9本、200kmオーバーの記録が5本も生まれた。

その中でも岡田選手の4月12日のフライトは足尾エリアから仙台市を越え

る記録的なフライトとなり、国内距離飛行の最長距離フライトとなった。

フライトコンテスト全体でも盛り上がりを見せており、申請数が例年は60件前後を推移してきたが、2021年は60件の申請があった。これは、コロナの影響で大会が軒並み中止になるなか、

パイロットたちの情熱がクロスカントリー飛行に向けられた結果ともいえる。2022年も更なる記録フライトが生まれることを期待している。

フライトコンテストでは、パイロットの皆さんのフライトの応募をお待ちしています！

田中元気、3年ぶりの日本選手権者に！

2022年1月8日-10日 静岡県富士宮市朝霧高原西富士友の会エリア 報告：大会実行委員長 鈴木 由路

2022年1月8日から10日まで、静岡県朝霧高原西富士エリアで、ハンググライディング日本選手権2022 in 朝霧／2022 Nishifujiを開催。3日間ともタスクが成立し、3年ぶりの日本選手権者決定となりました。

タスク1は51kmタスクで、7人がゴール。小椋選手が2位に30分以上の差を付け、ダントツのトップでした。

タスク2は少し短めの45kmタスクで、7人がゴール。馬場選手が2位に10分以上の差を付けてトップゴールを決めました。

トップ3の選手が19点差以内と、僅差で迎えた最終日は、63kmタスク。スピードレースの好コンディションの中、17人がゴール。3年ぶりに日本選手権として成立し、田中元気選手が2015年、2019年、そして今回と3回目の日本選手権者となりました。

今大会のハイライトとしては、学生の松永選手が最終日を2位で迎え、最終的にも総合3位という素晴らしい成績を納めたこと。決して簡単ではないテイクオフ前でのガーゲルを乗り越え、並み居る強豪を抑えて3日間ともゴールを決めて堂々の3位でした。もし学生での日本選手権者になっていれば史上初の快挙でした。

スポーツクラスも、初出場の平岡選手が見事ゴールを決めて優勝。次回はオープンクラスで参加したいと宣言してくれました。

コロナ禍で大会中止が続く中、大きな事故もなく天候に恵まれ、3日間飛べて充実した大会となりました。

[オープンクラス]

1位	田中 元気	大 阪	2249点
2位	砂間 隆司	愛 知	2182点
3位	松永 大輝	大 阪	2006点
4位	太田 昇吾	茨 城	1997点
5位	板垣 直樹	茨 城	1978点
6位	鈴木 博司	岐 阜	1973点
6位	小椋 溪太	神奈川	1973点

[女子]

1位	櫻井さやか	栃 木	673点
2位	佐野 容子	和歌山	462点
3位	野尻 知里	茨 城	411点

[学生]

1位	松永 大輝	大 阪	2006点
----	-------	-----	-------

[スポーツクラス]

1位	平岡 誉登	大 阪	392点
2位	佐藤 央至	京 都	38点

日本選手権者から

田中 元気

日本選手権 in 朝霧で優勝することができて本当に嬉しいです！

昨年度、一昨年度は日本選手権としては残念ながら条件が揃わずに成立し



3回目の日本選手権を獲得、田中元気、ランディング。

ていなかったもので、3年ぶりの日本選手権成立となりました。コロナの影響で中止される大会が多い中、今回はまだ影響が少ない状態だったために大会開催されて本当に良かったです。3日間とも飛べましたが、渋い条件もあり、3日ともゴールできたのは自分と砂間選手と松永選手の3人だけでした。

西富士エリアでの優勝も3回目2連覇、日本選手権も3回目2連覇で、すごく嬉しいです。大門選手はなんと7回も日本選手権者になっているので、その記録を目指してこれからも頑張ります！ まだまだ若者の壁として、目指してもらえ選手となれるように精進していきたいと思います。



雄大な富士の懷で日本一をかけて競う。西富士ならでは。



全日競技成立。選手も役員もお疲れさまでした。



1～6位入賞者。3位は学生パイロットの松永大輝。



女子1位は櫻井さやか。

JHFからのお知らせ【競技】

■HG競技者育成プログラム始動！

この度、HG競技委員会は「ハンググライディング競技者育成プログラム（通称Fledge）」を立ち上げました！

日本ハング界の競技レベル全体の底上げを目的としており、以下を目標としています。

- ・世界選手権での国別メダルの獲得（トップレベル）
- ・ハングシリーズ登録者の拡大（ミドルレベル）
- ・スポーツクラス競技の推進（スタートレベル）

具体的には

- ・海外有力選手の招聘
- ・ハングシリーズ大会の企画、運営
- ・フライトセミナーの実施
- ・スポーツクラス大会の企画、運営

などを企画していく予定です。

JHFウェブサイト、HG競技委員会ホームページで随時情報を発信していきますので、どうぞお楽しみに！

<https://jhf.hangpara.or.jp/hgc/fledge/>



第22回HG世界選手権のゴールで、田中元氣と鈴木由路。



第22回HG世界選手権国別首位はイタリア。いつかここに。



第11回アキュラシー世界選手権は韓国が三冠を達成。

■PGアキュラシーアジア選手権開催

6月21日から29日まで、カザフスタンのTaldykorgan（タルディコルガン、アルマトイの北東約230km）において、第4回FAIパラグライディングアキュラシーアジア選手権が開催される見通しとなりました。下記の皆さんが日本チームとして参加の予定です。

岡 芳樹、古賀光晴、山口香代、平野竜二、浅田寛之、橋本みさ紀、伊藤まり子

昨年の世界選手権では韓国が総合／女子／国別で首位。さて今回勝者は？

学連ニュース

学生フライヤー連盟（JSFF）の篠原旭です。この度、斎藤の後任として理事長を務めさせていただくことになりました。まだまだ若輩者ですが、精一杯努めたいと思いますのでよろしくお願いします。

今回は現在の学生の活動状況、2022年度のスローガンとそれに対する抱負について話したいと思います。

まず、現在の活動状況ですが、多少の斑はありますが、徐々に活動している学生が増えてきているように感じます。新型コロナの影響であまり活動できていなかった生徒がここ最近活動を再開し、初飛びをすることができたり、感染対策を徹底したうえで、新入生同士で自主的に小規模な合宿を開催するなど、活動が活発になってきている報告を耳にすることが増えてきています。次の新入生が入ってきててもこのような活動を行えたらと考えています。

次に、2022年度のスローガンは「他大学との交流と新歓」に決定しました。2021年度の問題点として、新型コロナウイルスの影響により大会やツアー等をあまり開催することができなかったため、他大学との交流の場をあまり設けることができませんでした。

そのため2022年度はその2つの実施に力を入れていきたいと考えています。大会の開催は学生のモチベーションの向上につながります。また、大会時期ではないときにツアーを行うことによって他大学の方とともに練習し、競い合うことができます。もちろん、新型コロナウイルスの感染状況によるとは思いますが、できる限り交流の場を設けられるよう尽力していきたいと思っています。



新入生の活動が少しずつ活発になってきた。



初飛びした新入生。今年度は多くの初飛びを見たい。

また、今年度も昨年度に引き続き新歓にも力を入れていきたいと思っています。活動している学生数は少しずつ増えてきていますが、コロナ禍以前に比べると活動者数も母体数も依然として少ないままです。以前の状況に近づけるという意味でも、ハンググライダー・パラグライダーの人口を増やすという意味でも、新歓というのは非常に重要なイベントだと思います。私の所属するサークルではすでに2、3人の新入生が体験を希望してきています。そのようなやる気のある新入生はもちろん、入部するか悩んでいる生徒にも快適な体験を行えるような制度を整えられるよう努力していくので、ご協力よろしくお願いいたします。

最後に、上級生、新入生ともに新たな気持ちで新年度を迎えていると思います。私自身、この2年間あまり活動ができておらず、大会の企画・運営の経験がなく、初飛びすらできていない状況なので、未熟で至らない点が多いと思いますが、精一杯努力いたしますので、暖かく見守ってくだされば幸いです。皆さんも事故には十分気を付けて、周囲の安全を確保しながら、楽しく空を飛びましょう。

JHFからのお知らせ

■会費のPay支払いが可能に

フライヤー登録会費のPay支払いが可能になりました！

コンビニエンスストア、ゆうちょ銀行へ行かなくても、お手持ちのスマホ等でお支払いいただけます。JHFからお送りする更新案内の払込票で、1年更新か3年更新かを選んで、バーコードを読み取り、決済してください。

利用可能な決済は、2022年3月時点で、LINEPay、auPAY、PayBです（集金代行手数料は各自ご負担ください）。

決済の完了後、JHF事務局でデータ確認ができ次第、登録のご住所宛に会員証をお送りします。

1週間が過ぎてもお手元に会員証が届かない場合は、お手数ですが、JHF事務局までお問い合わせください。

■HG教本／PG教本を好評頒布中

ハンググライディング技能証規程の改正に伴い、教本の内容も大幅に見直し、『JHFハンググライディング教本改訂版』を2021年6月に発行、頒布中。A4サイズ、224ページ、モノクロ印刷。

また、2021年3月、『JHFパラグライディング教本改訂版』を発行。A4サイズ、176ページ、カラー印刷。

どちらの教本も、写真や図を用いてわかりやすく解説しています。入門者はもちろんのこと、既に経験を積みフライトを楽しんでいるパイロットにもぜひ読んでいただきたい内容です。

HG教本、PG教本とも、1冊3,000円（送料込み）。一度に10冊以上ご注文の場合は、1冊2,800円です。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。事務局にご注文の場合は、JHFウェブサイト「JHFのご案内〔書籍情報〕」から注文書をダウンロード、必要事項をご記入ください。代金をお振り込み（送金手数料はご負担ください）のうえ、注文書と代金振り込み控えを郵便またはFAXでJHF事務局にお送りください。ご入金を確認後、教本を発送します。

■チェック5タグを頒布中

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。

施。その一環として「チェック5タグ」を作り、フライヤー会員の皆さんにお届けしています。

このタグをご希望の方は、各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）。メールかFAXでご連絡をお願いします。

■氏名・住所変更のお知らせ

発行のたびにJHFレポートが宛先不明で事務局に戻って来ます。お名前やご住所に変更があったら、できるだけ早く事務局にメールかFAXで下記をお知らせください。

- ・フライヤー会員番号 ・お名前
- ・新住所 ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

■JHFレポート236号の訂正とお詫び

JHFレポート236号（1月30日号）文面に誤りがありました。16ページ「上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め」の13行目に対応機種として「ALINCO製のDJ-PV1D」を掲載しましたが、当該モデルはスカイレジャー無線機5チャンネル搭載機種ではなく、JHF推奨対象機種ではありません。訂正してお詫び申し上げます。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県、静岡県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

■転居のお知らせや各種申し込み お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp
https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）
巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート237号

発行日：2022年（令和4年）4月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト